

『ふしぎなえ』

安野光雅／え 福音館書店 1968

そのタイトルもズバリ!「ふしぎなえ」。1冊まるっと絵だけ!シンプルな絵に見えるが、よくよく見るとそのふしぎさに驚かされる。1968年に描かれて以来、今もなお人々を魅了している絵本。続いて出された『さかさま』『ふしぎなサーカス』も楽しい。

『光の旅かげの旅』

アン・ジョナス／著 評論社 1984

表紙をめくり、読み進むと最後のページで「本をさかさまにしてごらん!」。指示通りにさかさまにすると、おはなしが続いていくしかけになっている。白と黒だけで描かれたコントラストが美しく映えて、少し遠くから大勢で見ても楽しめる。

大人も楽しめる

ふしぎな絵の本

『視覚ミステリーえほん』

ウォルター・ウィック／作 あすなろ書房 1999

様々な模型を使って撮影された写真は、錯覚が起こるように工夫が施されている。子どもたちに大人気の「ミック!」シリーズを作っている著者による楽しい一冊。この絵本を見終わる頃には、著者の言うように自分の目をうたがってしまうにちがいない!

『へんてこサーカス』

フィリケえつこ／作 ほるぷ出版 2012

サーカスの様子を描いた白黒の絵本。本当はまっすぐなのに傾いて見える文字や、本を斜めにしてのぞくように下から見ると分かる絵などがたくさん。巻末にそれぞれの絵の楽しみ方が載っている。

『スウィング！』

ルーファス・バトラー・セダー／さく 大日本絵画 2009

ページをめくると描かれている絵が動いているかのように見えるふしぎな絵本。リフティングやスケートのスピン、自転車にかけっこ、動きを何度も確かめたくてページを動かしてしまうはず。ほかにも『ギャロップ！！』『ワドル！！』がある。

『まちにはいろいろなかおがいて』

佐々木マキ／文・写真 福音館書店 2013

私たちの街の中で、顔に見えてしまうものたちを写真に撮ってまとめた一冊。近所のあのマンホール、あの家の窓…なんて気づくと楽しくなってくる。

この本が気に入った方は、こちらもおススメ

『ふしぎなまちのかおさがし』 阪東勲／写真・文 岩崎書店 2011

『もりのえほん』

安野光雅／[著] 福音館書店 1981

ただ森が描かれているように見える本。しかし、よくよく見ると森の絵の中に動物たちが隠れている。巻末の「森にかくされた動物たち」に動物の名前とページ数が書いてあるが、どこに何がいるのかは自分で見つけなければならない！

大人よりも子どもたちの方が早く見つけられるかも。

『ふゆめがっしょうだん』

富成忠夫 福音館書店 1990

冬の公園や雑木林でちょっと注意して探してみると、見つかる冬の木の芽たち。冬芽は、これから葉や花になるものが中に小さくたたまれて春を待っているらしい。木の種類によって、決まった“顔”をしていて、指紋のような役割があるなんて、これまたふしぎ。